

特42

842



清正一代記

大納言正房十代の

孫尾物大山の
政を常用情者後清の
冬着しをせむが

中村人

まそのふま

あつ物とら

若らう威る知

はんとておき金刀

飛渡と後せとて海はる清忠とら

いふあり一とを懐りて名と行板とあし

清忠

▲七女の所

うた刀と

理りて

勢も元

ま運り

又清忠

も清

電

次へ



つぎ みるく 虎大切又首てぶ
 九丈の捕まふを雨の小更と
 ありありと力とらると
 りんごの竹松
 一匹の者色
 二入の法徳
 おのつれバ
 おりるに
 捕まふと
 盗賊のまの



盗賊

●あるは虎と助の緒とををら
 風吹のよく海軍の浪士が
 入込んて礼器をまて受
 吾らかき名を彼収めと
 捕まふ男んと徳をも
 連まら一人り徳討
 来るて天
 吾らか
 弁由ま
 吾らか
 吾らか
 吾らか

下と流りぬけ徳の利
 純よりより疾く孫のどく
 おりる今一人が斬
 つけると併とらりて
 おりるり美をうとあて
 肩をらと打りか流カ
 手及の竹柄よきとてわ
 とあるんきを生け生か終一とを
 十とやよりて秀者よは人なと
 虎と助徳とてびゆ竹中宗
 美満を流と作し軍家級た
 まび十とやのねとてはあ長一

虎之助

▲ありは徳下
 あいて二人の浪士が
 白髪を交へさる
 かくら 珍虎の勢い



盗賊

細の
 初双
 傷よ
 及
 次
 盗賊
 盗賊
 盗賊
 盗賊

夢のよき
 自らの
 後
 井上大九郎
 作せの工く我く
 一所の集り
 かく
 夢のよき
 自らの
 後
 井上大九郎
 作せの工く我く
 一所の集り
 かく
 夢のよき
 自らの
 後
 井上大九郎
 作せの工く我く
 一所の集り
 かく



夢のよき
 自らの
 後
 井上大九郎
 作せの工く我く
 一所の集り
 かく

不乃るまは我く
 幸で看道まき
 色香は光り捕り
 結んと吸り声
 天地よはあはれ
 然月若とひくさるま
 る松よ二人の
 武士の互
 ひよな
 石ノ刀とさき
 虎之助とさる
 よりの代地よあはれとつたるま



木村又藏
 虎之助
 助の大ひま
 びはさるま
 と家来と
 白黒
 次へ





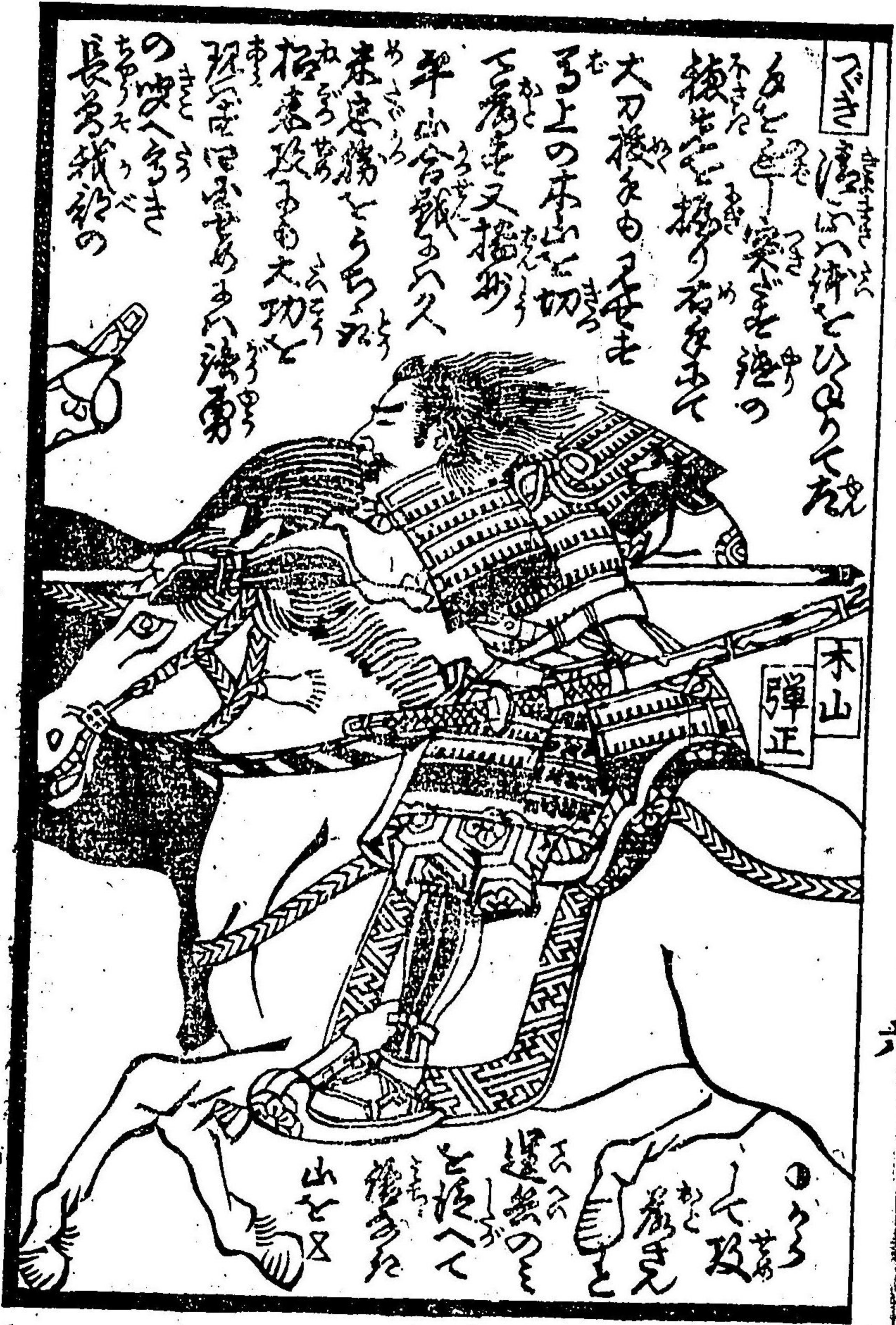
▲しんまの
 徳が縁の
 合戦まの
 小方のま
 勢ひ下る秀
 者の平
 陣△



▲つま
 元とほしるまを
 大善とあが
 一なるは縁の
 只後まを
 むとあま
 らんと終る
 よう山崎の
 物持つる大
 幾人ぞふ清

聖天但馬守

▲ま
 く押
 勇と現
 松片相助
 石川孫助
 佐林七右衛門





清正

七

清正の御旗

とくまの由
 市子清正の
 足元花の
 只下突々
 殺され
 しかた
 怪



変化の由
 知れぬ
 白と死
 と又由
 舟
 先
 舟
 舟
 舟
 舟

舟



山
 大蛇の窟
 山
 大蛇の窟
 山
 大蛇の窟

大蛇の窟
 山
 大蛇の窟
 山
 大蛇の窟





石川五右衛門一代記 全二冊
 明治十三年七月十六日出版

鬼神の於奈 全二冊

水戸黄門記 全二冊

地本 錦繪 おろし 全二冊
 本所区緑町四丁目五番地
 荒川吉五郎版

